

AUTOBACS
GPR
KARTING SERIES
2023

2023年AUTOBACS GPR KARTING SERIES Rd.7/Rd.8

開催場所：フェスティカサーキット瑞浪

開催日：9月2～3日

●天候：晴れ ●路面状況：ドライ

●参加台数：OK 22台 / Junior 17台 / Cadets 20台 / Shifter 13台

2023年オートバックスGPR KARTINGシリーズ第7戦/8戦が、9月2～3日の2日間、岐阜県・フェスティカサーキット瑞浪で開催された。

今季のGPRシリーズで唯一の2大会開催の瑞浪。今回は、前回大会との違いを生み出すため、第7戦と第8戦で決勝周回数に差をつけ、異なったレース戦略等が発揮されるよう工夫された。

[OK Rd.7] 鈴木斗輝哉が3連勝！



■鈴木斗輝哉/優勝ドライバーコメント

バトルもすることなくいつも通りの走りで逃げ切れてよかったです。午後も、2連勝目指し頑張ります。

今回も2組に別れて行われたタイムトライアル。今回は全体的に先に出走したA組のほうがタイムが良く、総合ではA組のほうの上位4人がそのまま総合トップ4を占める。

各組上位4名ずつが出走するスーパーポールへはA組から鈴木斗輝哉、熊谷憲太、酒井涼、鈴木悠太、B組からは吉田馨、三村壮太郎、菊池貴博、藤井翔大がそれぞれ進出する。

6分間のスーパーポールでは、もてぎ大会も連勝して今大会へ乗り込んでいる鈴木斗輝哉へのマークが厳しく、ほぼ全車が鈴木斗輝哉のスリップを使おうと、激しい位置取り合戦も見られた。しかし、そのマークにも関わらずスーパーポールを制したのは鈴木斗輝哉。第7戦決勝PPを獲得する。

第7戦決勝は、通常よりやや短い19周。スタートで飛び出したのは鈴木斗輝哉。2番手に熊谷が続く、地元の酒井、鈴木悠太らも続いていく。しかし、序盤からペースのいい鈴木斗輝哉がジリジリと後続を引き離していく。2番手には酒井が上がってくるが、鈴木斗輝哉を追えるほどのペースはない。鈴木は10周すぎには約2秒のリードとし完全な独走体制。後方では、スーパーポールをトラブルで落とし、7番手スタートとなっていた吉田が追い上げを見せ、最終ラップに2番手を奪う。トップ鈴木斗輝哉は最終的には4.5秒の大差を築き独走で3連勝。ランキングトップを盤石なものとした。2位に吉田、3位には熊谷が入った

[Cadets Rd.7] 激戦を制したのは横山輝翔！



■横山輝翔/優勝ドライバーコメント

バトルが激しかったのですが、自信を持って走っていました。午後も絶対に勝ちたいです。2連勝してスポンサーやチームの人など、いろいろな人にお礼が言えるようにがんばります。

カデットクラスには20台が参加。今回は中国からも二人が参戦した。カデットクラスは、ランキングトップの森谷永翔にタイトル決定の可能性があり、大いに注目された。

タイムトライアルでは、森谷を抑えたいランキング2位の横山輝翔がトップタイムをマーク。さらに、ランキング3位の松尾柊磨も2位につけ、森谷を3位に抑え込む。

第7戦決勝は12周のスーパープリント。好スタートは横山で、その後方に森谷、松尾、林樹生、中野貴介らチャンピオンを争うメンバーが上位に付ける。

3周目、松尾がトップに浮上し集団を引っ張るが、6周目の2コーナーで松尾と中野が交錯しコースアウト。中野は再スタートしたものの、松尾はその場でリタイヤとなる。

これでトップ集団からは森谷がやや抜け出した形となるが、ジリジリと横山が追い上げ、9周目のヘアピンで逆転。その後二度三度と順位を入れ替えるバトルが続くが、最終ラップのタコツボでトップに立った横山が、以降は後続を抑えきりチェッカー。今季2勝目を飾った。2位にはこちらも最終ラップに順位を上げた林が初表彰台を獲得。森谷は3位となりタイトル決定は第8戦以降へ持ち越された。

title sponsor



series sponsors



series partners



[Junior Rd.7] 酒井龍太郎が接戦を制し優勝！



■酒井龍太郎/優勝ドライバーコメント

今週はペースがあったので、そのペースで走れば勝てると思ってました。午後は瑞浪大会全勝を目指したいです。

ジュニアクラスには16台が参加。タイムトライアルでは、7月の全日本本庄大会で左腕骨折の負傷を負い、お盆明けにレース復帰した酒井龍太郎が復活を印象づけるトップタイムをマーク。2位に澤田龍征、3位に松井沙麗が続く。

15周で行われた第7戦決勝。好スタートを見せたのは酒井。その後方に松井が続き、関口瞬が3番手に浮上、澤田は4番手でオープニングラップを追える。

順調にトップを走る酒井だったが、10周目のタコツボで澤田が仕掛けトップを奪う。その後澤田の後方でチャンス伺っていた酒井は、14周目に仕掛け逆転。最終ラップは澤田の攻勢を抑えきり、復活の優勝を飾った。2位に澤田、3位松井となった。

[Shifter Rd.7] 岩崎有矢斗が独走で優勝！



■岩崎有矢斗/優勝ドライバーコメント

ペースがよくないと思っていてプッシュしていたら後ろが離れてくれたので、後半はタイヤをセーブする走りもできました。午後もちぎって勝ちたいです。

シフターには12台が参加。今大会の結果までで、イタリアで開催されるRok世界大会への派遣選手が決することとなる。

タイムトライアルでトップタイムをマークしたのは井出七星翔。コースレコードを更新してのPP獲得だったが、前日の土曜日も学校で授業を受けていたため、今回は練習走行なしのぶっつけ本番。それだけに、このPP獲得は周囲を驚かせた。

15周の第7戦決勝。PPスタートの井出はスタートでやや失敗し遅れる。一方、好タッシュを見せたのは4番手スタートだった富田星羅で、車列を縫うようにスタートを決め、ホールショットを奪う。しかし、すぐに逆転したのはスポット参戦の岩崎有矢斗。瑞浪ではミッションカートのKZクラスで無敵を誇った時期もあり、今季はイギリスでフォーミュラに出場している岩崎は、夏休みを利用したスポット参戦。トップに立つと、そのままの勢いでリードを築き、10周目すぎには1秒半ほどのリードとする。その後も差を広げていった岩崎がトップチェッカーでGPR初優勝。2番手には富田が入るが、ジャンプスタートによりペナルティとなり、2位安室祐、3位東拓志となった。

[OK Rd.8] 鈴木斗輝哉、タイトルを大きく引き寄せる4連勝！



■鈴木斗輝哉/優勝ドライバーコメント

チームから5秒引き離せと言われていたので、目標を達成できてうれしいです。先にチャンピオンを獲得したOKチャンプとの2冠を達成したいし、APGでも2連勝できるように頑張ります。

第8戦のグリッドは第7戦決勝でのベストラップ順。第7戦でファステストラップに贈られるチャンネル700賞を受賞した鈴木斗輝哉がポールからのスタートとなる。決勝は周回数も増え25周。タイヤライフもあり、伸びた周回数がどう影響するかも注目だ。

スタートではやはり鈴木斗輝哉が好スタート。以下酒井、鈴木悠太、吉田が続いていく。鈴木斗輝哉は第7戦以上のハイペースで周回を重ねると、10周目には2秒半のリード。2番手には吉田が上がるが、ラップタイムも若干鈴木斗輝哉のほうが速く、じわじわと差が広がっていく。2番手吉田も単独での走行。その後方の3番手熊谷の背後には、トラブルで第7戦を殆ど走っていないタイヤもたっぶり残っている金子修が接近していく。

トップ鈴木斗輝哉のリードが、一時は6秒を超えるほどとなり、そのままチェッカー。最終的には5.6秒差で独走優勝を果たした。2位に吉田が連続入賞、3位は金子がチェッカーを受けたが車検で失格となり皆木駿輔が繰り上がりで3位となった。

この結果、ランキングトップの鈴木斗輝哉がタイトルに大きく近づき、逆転の可能性を残しているのは吉田のみ。しかも吉田は最終戦のAPG大会で両レースに優勝し、鈴木斗輝哉がトータル2P以下、もしくは吉田がスーパーポールも制しボーナスポイントを加算&2勝ならば、鈴木斗輝哉が3P以下でなければ逆転できないと、鈴木斗輝哉が圧倒的優位で最終ラウンドへ進むこととなった。

title sponsor



series sponsors



series partners



[Cadets Rd.8] 森谷永翔、優勝でチャンピオン獲得!



■森谷永翔/優勝ドライバーコメント

めっちゃ嬉しいです。バトルの中でも勝てる自信は持って走っていました。チャンピオンは獲得できましたが、最終戦のAPGも優勝して締めくくりたいです

第8戦は18周。このレースのスタート時点で、タイトル戦線に残っているのは森谷と横山。森谷は2位以上で横山に先着すればタイトル決定となる。逆に横山から見れば、なんとしても森谷より前を走らなければならない。迎えた決勝。好スタートはPPの森谷。後方には横山、中野、林らが続いていく。4周目には林がトップに浮上し、中野が2番手に上がるなど森谷を集団に飲み込もうとする。横山もこのトップ集団の中でレースを進めるが、なかなか主導権を握るまでには至らない。レースの後半へと入った12周目、2コーナーで森谷がトップに浮上。それを森一真、横山、中野らが追っていく。終盤に入っても、トップグループは5台が一丸となって周回する激しい展開。最終ラップ、5コーナーの立ち上がりでトップ争いの森谷と横山がサイドbyサイドのなか接触し、横山が遅れる。これで単独走行となった森谷がそのまま逃げ切るとチャンピオンを決める今季5勝目を獲得した。

[Junior Rd.8] 酒井が今季GPR瑞浪負け無しの4勝目!



■酒井龍太郎/優勝ドライバーコメント

最後は空いているところに飛び込んだら前に出られた感じです。瑞浪で初優勝から4連勝できているのですごく嬉しいです。

第8戦のPPは元田心絆。、2番手に関口が並び、酒井は8番手スタートとなる。好スタートは元田、その後方に関口、坂野太弦が続く、その後ろに酒井がジャンプアップ。さらにオープニングラップで3番手に上がってくる。2周目には坂野がトップに浮上。2番手には酒井が上がり、関口、元田、澤田が続いていく。坂野はトップで周回を重ねていくが、中盤以降にトップ集団のバトルが激しくなると、集団に飲み込まれていく。レース後半にトップに出たのは澤田。しかし、周回を重ねるごとに激しくなるトップ争いは、集団から抜け出すことを許さない。最終ラップまで集団でのバトルが続く、最後はバックストレートエンドでインに飛び込んだ酒井が逆転し、今季のGPR瑞浪大会4レース全てに優勝。2位に関口、3位澤田となった。この結果、ランキングトップは関口がキープしたものの、わずか3P差で酒井が2位となり、さらに3位の澤田までタイトルの可能性が残されることとなった。また今大会までの結果で決定するIAMEワールドファイナルへの出場権は、ランキングトップの関口に与えられた。

[Shifter Rd.8] 宣言通り、岩崎有矢斗が独走で連勝!



■岩崎有矢斗/優勝ドライバーコメント

2連勝できてうれしいです。今週末は、徐々にセットも煮詰められてきて速くなっていき、楽しい週末でした。

第8戦決勝は20周。今回もホールショットは絶妙なダッシュを決めた富田。しかし、すぐに岩崎がトップに戻りレースを引っ張っていく。富田の後方には丸山、安堂、井出らが続いていく。トップの岩崎は、第7戦ほど序盤から独走するというわけではないが、ギリギリと差を広げると、単独で周回を重ねていく。10周すぎにはリードも1秒以上とし、トップのポジションは安泰となる。2番手には安堂、3番手には丸山が上がってくるが、岩崎との差を縮めることができない。岩崎は1秒半ほどのリードを保ったまま周回を重ねると、そのままチェッカーを受け2連勝を飾った。2位には安堂が入りランキングトップをキープ。3位に丸山が入った。この結果、タイトルの可能性が安堂、丸山、東拓志の3人に残され最終戦へと進むこととなった。またRokファイナルへの派遣選手は安堂と35歳以上のマスタークラスで小林弘直の二人が獲得した。

title sponsor



series sponsors



series partners

